

※ 時間にミスがあり、再度お知らせを配付させていただきます。

11/13
(火)

~~14:30~15:40~~

訂正
14:00~15:10



H30年度扶桑中学校 健康ひろば つながる いのち ～生まれるという奇跡～

ともすれば助からないかもしれない小さい命の意味と可能性を信じ、
最先端の医療現場で全力を尽くして見守る川鰭（かわばた）先生。

日々死と隣り合わせのお産の最前線で活躍する、
産科医の立場から

「いのち」について語っていただく講演会です。

生まれてきて良かったと思う時間になる



かわ ばた いち ろう

川 鰭 市 郎 先 生

川鰭先生の病院に入院する母親やその赤ちゃんたちは、深刻な症状を持ち、治療が困難な場合も少なくない。最善の治療を施したとしても、亡くなってしまう命がある。川鰭先生は赤ちゃんを亡くした夫婦やその赤ちゃんの姿から、教えてもらったことがあるという。



「その赤ちゃんがいたことで、ご夫婦は向かい合って子どもや家族のあり方について一生懸命話し合う。その赤ちゃんがいなければ語らなかったことについて語り合う。それはご夫婦にとって、大きな物を残すことになる。だから80年生きた命も、10分で亡くなった命も、生まれてきたときには心臓が動いていなかった赤ちゃんも含めて、生まれてこなかった方がよかったという命は、ひとつもない」

講師：川鰐 市郎(かわばた いちろう)先生のプロフィール

2014年6月23日 NHKプロフェッショナル ～仕事の流儀～ 出演

■ 人物略歴

松波総合病院

産婦人科周産期医療対策室長

京都市出身。兵庫医科大卒。岐阜大学産婦人科や長良医療センター等を経て、平成28年4月より松波総合病院に勤務。専門は胎児医療。

松波総合病院ホームページにて「かわばたレター」を掲載、医療問題やF C岐阜などについて情報を発信中。平成20年、地域に密着した母子保活動で著しい成果を上げた人に贈られる、第30回母子保健奨励賞を受賞。岐阜市在住。

中京テレビ キャッチ（隔週木曜日）のコメンテーターとしても活躍中。



松波総合病院HP かわばたレター 2018年4月号より

（前略）18トリソミー、これは18番目の染色体が1本多い病気です。

この状態で産まれると、心臓などに大きな問題を抱えることが多いため、長く生きることとはできないとされてます。そのため、かつては治療の対象とはならないとされてたんです。でも最近は新生児医療の介入も進んできて、年単位で生きることだって珍しくはなくなってます。

（中略）18トリソミーの赤ちゃんは私にとって大切な存在なんです。NICUがない病院で胎児診断をしていた頃、治療の対象にならない赤ちゃんが産まれても小児科では診てもらえません。亡くなるまで私が診てました。フジテレビ最強ドクターシリーズにも、NHKプロフェッショナルでも18トリソミーの赤ちゃん和我的関わりがとりあげられてました。多くの赤ちゃんが人工呼吸器を必要としますから、ご家族は大変なんです。でもこの子がいるから私たちは不幸になった、というご家族に会ったことがありません。1日でも長く生きてほしい。ほんとうにかわいい。やっぱり意味のない命はないんです。（後略）

